

四十三回蒼天句会 今月の一句

令和八年五月十四日 兼題…若葉、又は自由

小上がりに膝を崩せり初鰹 公子

若葉風白鷺ふわと三番瀬 婦紗子

頬っぺたに米粒ふたつ若葉風 賢一

民宿のラジオ体操今朝の夏 繁一

よろこびは些細なるもの柿花芽 孝志

横一列ステップを踏む薄暑かな 信江

飛行機の影くつきりと青嶺かな 静江

高台寺春の名残りの二寧坂 鎮夫

公園の中央に萌ゆ楠若葉 国祥

森に入るや薫り拡がる若葉風 隆彦

青き踏む野の花の名を三つ知り 重子

河骨や池は来世の明るさに 朱美

木漏れ日の一人静を照らし居り 紹子

パンケーキ待つジャスマインの中庭で 晴代

古い集うラジオ体操若葉光 久恵